

2 横浜みどりアップ計画3か年の主な成果と課題

平成26年度から平成28年度までに実施した事業の主な成果と課題は次のとおりです。



取組の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

- 土地所有者の理解と協力を得ながら、特別緑地保全地区などの制度指定により森の保全が進展しました。
- 森に関わるきっかけとなるイベントや講座の開催、市民と協働で良好な森を育成するための取組などにより、市民の森への関わりが広がり、深まりました。

課題

- ・制度指定されていない樹林地の小規模化
- ・市が取得した樹林地の維持管理 など



取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

- 市内の水田の9割を保全するなど、良好な農景観を保全するための取組が進みました。
- 農園や農体験教室、農畜産物の直売所など、市民のニーズに合わせた農とのふれあいの場が着実に増加しました。

課題

- ・農を支える担い手の不足
- ・都心臨海部等での市民と農とのふれあいに対するニーズへの対応 など



取組の柱3 市民が実感できる緑をつくる

- 市民との協働により、市内 35 地区で緑のまちづくりが進展 しました。
- みなとみらい21地区から山下地区を中心とした都心臨海部で、街の賑わいを生み出し、観光・MICE にも貢献する緑の創出が進展 しました。

課題

- ・緑化を行った地域や施設管理者へのフォローアップ
- ・創出した緑花の高質な育成・管理の継続
- ・個別の市民・事業者における緑化の取組への誘導 など

事業費・みどり税の執行状況

3か年事業費累計：27,777 百万円（うち横浜みどり税：7,588 百万円）
[5か年計画事業費：48,488 百万円（うち横浜みどり税：13,019 百万円）]

取組の柱 1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

森の保全が進展

「緑の10大拠点」をはじめとした市内に残るまとまりのある緑地を保全して次世代に引き継ぐため、土地所有者の理解と協力を得ながら、特別緑地保全地区・市民の森・緑地保存地区などの制度指定を積極的に進めました。また、特別緑地保全地区等の指定地で、土地所有者の不測の事態等による買入れ申し出に、着実に対応しました。

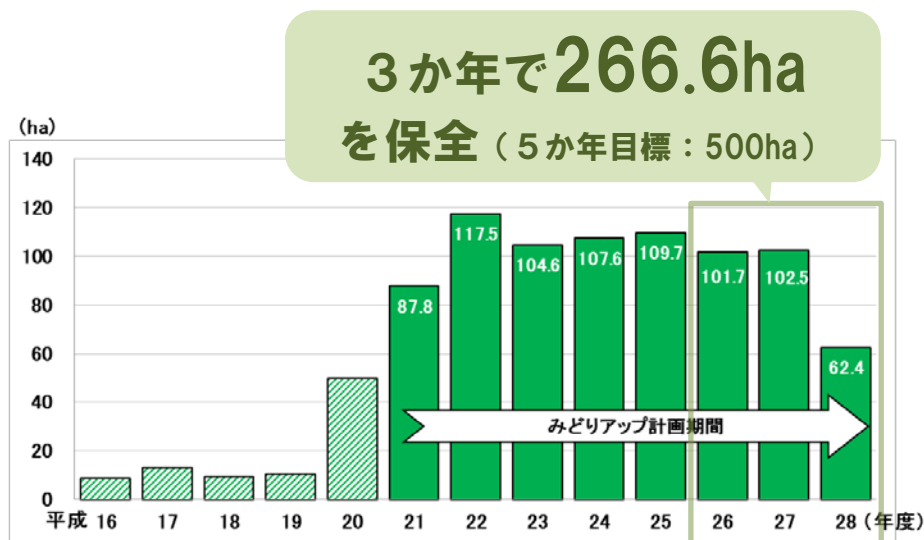
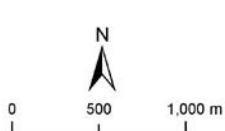


図 緑地保全制度による新規指定等の面積推移



- 凡例
- みどりアップ計画前（～H20）
 - みどりアップ計画後（H21～H28）
 - その他（公園等）
 - 10大拠点の範囲

図 緑の10大拠点（三保・新治地区）での制度指定状況

森への関わりが広がり、深まる

森に関わるきっかけとなるイベントや講座を開催し、森に関わる市民の裾野を広げるとともに、森づくり活動に取り組む市民や団体を対象とした研修などにより、森を育む人の技術の向上を図りました。また、市民の森や都市公園内のまとまった樹林等において、森の将来像や維持管理の考え方、作業内容を定めた「保安全管理計画」を森ごとに策定し、生物多様性の保全や利用者などの安全確保のため、間伐や下草刈りなどの管理を進めました。



森づくりボランティア入門講座



アドバイザーの派遣



保安全管理計画に基づいた森づくり



春の野草 30 種研修

道具の貸出し
活動に対する助成
アドバイザーの派遣など

3か年で延べ**107**団体の
森づくり活動を支援
(5か年目標：100団体)

保安全管理計画の策定
計画に基づいた
維持管理作業

**森づくり
活動団体**

**森づくり
ボランティア
など**

森づくりボランティア入門講座
スキルアップ講座
活動団体の情報提供・加入の橋渡しなど

市民の森等のガイドマップ作成
ウェルカムセンターにおける
展示解説、自然体験、環境学習など

一般の方



自然遊び講座



トンボ観察会

クラフト教室や
生き物ウォッチングなど

3か年で**345**回の
森に関わるきっかけとなる
イベントを実施
(5か年目標：180回)

- 不測の事態による買取り希望等への対応：67.0ha [5か年の目標（想定）：108ha]
- 保安全管理計画の策定：樹林地 **8 か所**、公園 **12 か所** [5か年の目標：樹林地 15 か所、公園 10 か所]
- 指定された樹林地における維持管理の支援：**318 件** [5か年の目標：650 件]
- 3か年事業費累計：20,575 百万円（うち横浜みどり税：4,205 百万円） [5か年計画事業費：36,639 百万円]

取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

「農景観を次の世代に」

市内の水田の9割を保全

貯水機能や景観形成などの市民共有の貴重な農景観である水田の減少を食い止めるため、水稻作付を10年間継続することを条件に土地所有者へ奨励金を交付し、市内の水田の約9割にあたる120.8haを保全しました。

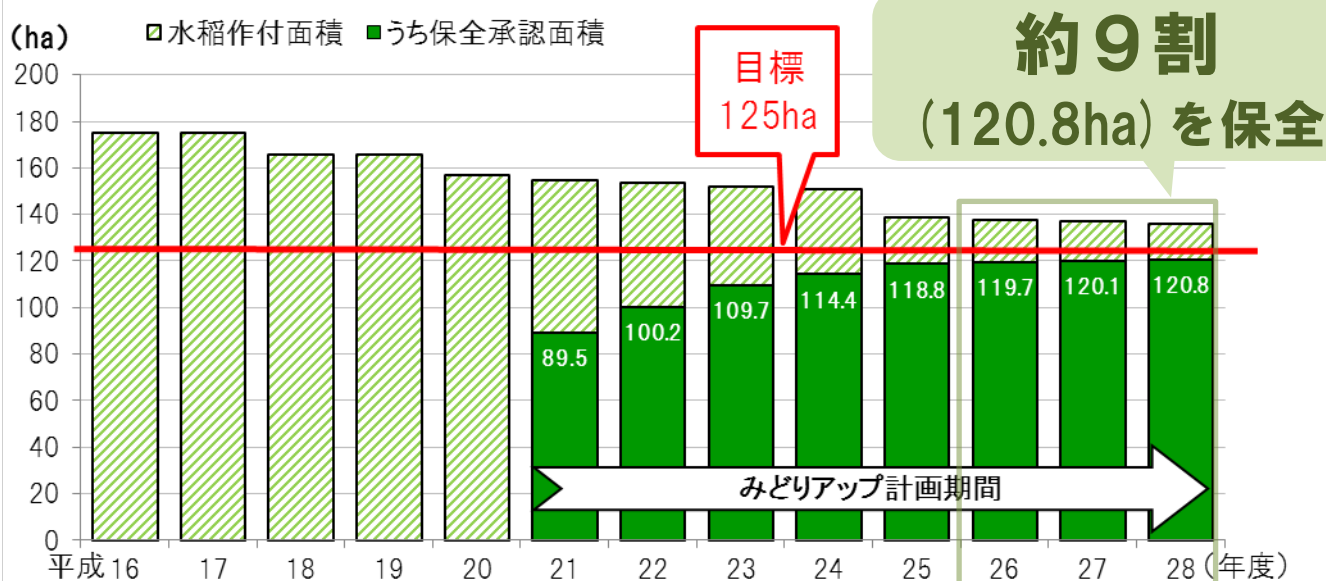


図 横浜市の水稲作付面積と保全承認面積の推移



農とのふれあいの場が着実に増加

食と農への関心や、農とのふれあいを求める市民の声の高まりに応えるため、収穫体験から本格的な農作業まで、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設や整備を進めました。また、農体験教室の開催や直売所・青空市への支援など、楽しみながら農とふれあい、農畜産物などを味わえる機会を提供しました。

気軽に農を体験する

本格的に農を楽しむ



3か年で**15.9ha（96か所）**
の農園を開設支援・整備
（5か年目標：25.8ha）



- 農体験教室などの実施：**270回** [5か年の目標：500回]
- 直売所等の支援：**25件** [5か年の目標：52件] / 青空市運営支援：**14件** [5か年の目標：25件]
- はまふうどコンシェルジュの活動支援：**63件** [5か年の目標：100件]
- 3か年事業費累計：2,685百万円（うち横浜みどり税：882百万円） [5か年計画事業費：3,985百万円]

① 取組の柱 3 市民が実感できる緑をつくる

35地区で緑のまちづくりが進展 緑を通じて地域も活性化

地域が主体となり、地域にふさわしい緑を創出する計画をつくり、計画を実現していくための取組を、市民との協働で進めました。

「緑や花でいっぱいの街をつくりたい」という地域の皆様から緑化計画の提案を公募し、まちづくりや緑化の専門家による計画づくりの支援を行い、平成25年度以前から継続して取り組んでいる16地区に加えて3か年で19地区の団体と新たに協定を締結し、市内35地区において、様々な緑をつくる活動が行われ、地域で緑化を推進しました。



横浜市内の
35地区で
 緑のまちづくり
 （5か年目標：46地区）

図 地域緑のまちづくり実施箇所

街の賑わいを生み出し、 観光・MICEにも貢献する緑の創出が進展

多くの市民が時間を過ごし、国内外からも多くの観光客が訪れるエリアである都心臨海部の都市公園、港湾緑地、街路樹などを中心に、質の高い緑や花の整備と管理を集中的に展開し、街の魅力の形成、賑わいづくりにつなげました。



- 民有地における緑化の助成：17 件 [5か年の目標：65 件]
- 公共施設・公有地での緑の創出：56 か所 [5か年の目標：58 か所]
- 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出：118 か所 [5か年の目標：100 か所]
- 3 年事業費累計：4,469 百万円（うち横浜みどり税：2,501 百万円） [5 年計画事業費：7,784 百万円]

2 横浜みどりアップ計画3か年の主な成果と課題

